

令和6年度タウンミーティング懇談録（谷田部会場）

日時：令和6年6月1日（土） 14:00～15:30

場所：みどりのプール

参加者：市長 ほか 参加者 31名

<懇談録>

○参加者1

私谷田部に住んでおりまして、区画整理事業が進行して終末に近付いている中で、集会所予定地が公益施設から一般民地に移行するというような手続きが今進んでいます。そうなれば、公益性が高いものだけではなくて、一般の住宅が建つというような状況になって、そこに将来というか、集会所が建たなくなると、その脇にある街区公園との mismatch を引き起こして、悪いシンボル地域になってしまうというような状況が生まれてると思っています。その中で、一応、市役所の方にも行って市民協働課の方に行って、状況などを確認していて、1回県の方に、集会所として購入しないというような意見は表明してるけれど、それはちょっとグレー的に見直すというような形で、私は受けてるわけなんですけれども。この集会所というのは、研究学園地区、梅園にも梅園公園があって、そこに集会所ができていますかと思えますけども、公園の中に集会所を作るというのはきっと、緊急避難的に作ったようなところなのかなと思います。駐車場もないし、そういうふうにやればね、長期のスパンでいった場合に、集会所は必要なので、そういうことに関して、今現在どういうふうに考えているかをちょっとお聞かせ願いたいんですが。

●市長

はい、ありがとうございます。ちょっと先に梅園の話をしてしまうと、梅園は相当どうも例外的なようでした、当時の何しろ合併のタイミングのですね、いろんな半分どさくさに紛れて当時進められたようなところがあるように聞いています。と言うと、あまりもう、当時の方もいらっしゃらないのであれですけども。今の御質問に関して言うと、おっしゃるとおり、集会所用地というのは、今まで確保されてきていました。それを県が、市が買うのか、買わないのか、要は市で一旦やる気があるのかということで、当然集会所というのは区会で作っていただくことになっていきますので、地域の皆さんにアンケート、まあ区会の皆さんにアンケートをしました。アンケートの結果は、もう自分たちでは、とても区

会を建設することはできないし、他にもいろいろ機能があるから必要ない、というお声が多かったので、一旦県に対しては、もう県は早く回答をしろという話だったので、一旦はそういう声をお伝えはしました。ただ、今お話あったように、地域からも、もうちょっとまちに人が張りついてから、その意向を確認すべきじゃないかというお声があったということで、それを県にまた伝えたら、県は今まではもう絶対デッドラインここじゃないと駄目だという話だったんですが、何か少し伸ばすと、まだいいという返事になりましたので、であればちょっと待つて欲しいというような方向性で今話をして、もう少し街が立ち上がってきて、地域の皆さんが、本当にそこにいらっしゃる皆さんが、御自分たちで議論をして、建てるのか、それともやっぱり厳しいのかということは、御判断をいただくまでは、留保をしておいてもらおうということになってます。ただ、いずれにせよ、やっぱり集会所は他の区会も建つという時は自分たちで建てていただいたりしているので、そこは市で集会所を建てますというのは、当然厳しいんですけども、今そういう状況にあります。

○参加者 1

事業計画変更に伴って、説明会が開催されて、3回ほど。私、1回出席して、事業計画変更に関しては、理念を悪く変えるので、反対だということで表明してる中で、出席者の方からも、心臓止まった時の AED を設置する場所というか、設置場所がないとかいう話題の中で、そういう拠点にもなるしというような、あまりこうね、集会所を要らないんじゃないかということに関しては出なかったところなので、よく考えていただきたいなと思います。そうは言っても、マニフェストというか、そこら辺をチェックした中で、私自身もちょっとね、OB というか、なので、その大事なところを引き継いでこなかったっていうちょっと反省の気持ちがあるんですけど。これ、20年、30年のスパンで考えるような形でない、建てるか、建てないかはわからないという状況があると思いますので、よく検討していただいて、より良い方向に進んでいただきたいと思います。

●市長

はい、ありがとうございます。あくまでも地域の皆さんに御判断をいただくまでは、市としては、県に対して、待つて欲しいということは言い続けようと思っておりますし、そうやって地域の皆さんが、自分たちのエリアのことを自分たちで考えるってことはすごく大事だと思っておりますので、そういうことを一緒にやっていきたいなと思っております。

○参加者 1

お願いします。

○参加者 2

いろいろありがとうございます。いろいろお世話なっております。1点ということで、1点に絞りましてちょっと御質問したいんですけども、135個公約があつて、非常にそれを実現するには予算も必要かと思うんですが、お聞きしたいことはふるさと納税について。現状と今後、市として財源確保のためにこのふるさと納税をどういうように持っていきたいかっていう、お考えがあるのであれば教えていただきたいと思ひまして質問させていただきます。

●市長

はい。私自身は、ふるさと納税というのは税の原則に相当反している問題の多い制度だというのが、そもそもの問題意識です。これは、税っていくつかですね、要は、その地域、恩恵を受ける人が納めるとかですね、いろんな原則があるんですが、私が言ってるんじゃないんですけども、アカデミアでもそういうことが指摘をされている制度なんですね。さらにそこに加えて、これ何でもいいから売るということが一時期問題になっていて、さすがに総務省もそれじゃまずいというので、そこに対して指導するようになっていまして。ただ、いまだにですね、相当な自治体が、例えば県内でも、ちょっと前の数字ですけど、多分17自治体ぐらいはもう指導されてるような、そういう中で、でも少しでも売ればいいというようなことが横行してしまってる、かなりまずい制度だと、大きな問題意識としてはそういうことです。さらに、そこに加えて、つくば市は不交付団体という、地方交付税が入って来ない、要するに普通はふるさと納税で流出をしてしまっても、お金が出て行く分はある程度は国が補填する仕組みになってるんですが、つくば市初め、全国でも市だと20団体ぐらいかな、の不交付団体は、その補填がされないんです。つまり、出た分だけ漏れという状態で、もう5年で30億円ぐらいの赤字になっているんです。これ実は、都市部の自治体ではどこも同じ構造なんですね。つくばが都市部と言っていいのかはわからないんですけども、実際つくば市では、やっぱりふるさと納税される方は、都市部の方って情報がいろいろあつてですね、これやった方が得だとね、カタログギフトと同じ状況になっていまして。それを、やっぱり何とかしていくことは、制度のまず改善が必要と。全国でも問題（意識）を持ってる首長たちはいますので、いろんなその政令市長会とかですね、この制度のそういうおかしさを指摘をしていますが、そういった人たちと一緒に連携をしつつ、でもこの流れ出てる血を止めないといけませんから、つくば市でも当然商品を増やすことは努力をしています。ただ、つくばに全然関

係無いようなものを入れても、これはしょうがないわけですから、今やっぱり増やしているところだと、日用品のニーズなどは、理由をちゃんと作れば、売り上げを増やすという意味では可能性があるんじゃないかと、そういう検討をしたりですね。それから、今度事業者自体を変えて、今までいろんなポータルサイトがあるのを、それを本当統括できるような、事業者に変更もしましたので、これからいろいろな手続きも、サイトによって今までバラバラだったのを、みんな全部オンラインで完結するような仕組みにしたりとか、ということで、その目減りを少しでも減らしたいと思って。ただ、市の構造からしても、流出が増えるのは間違いないということは思っています。ただそれを、ただ、手をこまねいて見てるわけにはいきませんから、いろんなつくばにも素晴らしい物産品がありますので、そういうもののPRをしていきたいと。ただ結局ですね、牛肉と米とカニは売れるっていう、そういう何かふるさと納税というよりは、もう何でもいいからとにかく牛肉だというのが、世間のトレンドでもあります。もちろんいろいろ工夫してね、ゴルフ場とかね、やったりしてっていうのは、ああいうのはどんどん学べる場所は学んでいこうと思ってますけども、構造的に問題があるんじゃないかなというのが私が今思っているところです。ただ、それは別に言い訳をしているわけじゃなくて、やることはやりながら、制度の変更を求めていきたいなと思っています。

○参加者 2

ありがとうございます。

○参加者 3

昨年、谷田部で同じ質問をしたと思うんですけど、子育て世代が増えているみどりの地域で私、青空おしゃべりパーティーという子育て支援や地域のまちづくりのお手伝いをしているんですけど、ここのコミュニティスペース、会議スペース、もし予約の入っていない時とかに流星台の子育て支援センターの出張所として、そこに例えばちっちゃい赤ちゃんとかちっちゃい子が過ごせるクッションフロアとかを設置していただいたり、出張という形で月に2回くらいこういう所にあつたらいいなという話を、この間公園でちょっとイベントをやった時に来てくれた方からお母さんのそういう声を聞きまして、今日のタウンミーティングも良かったら子育て世代の方行きましょうということで呼びかけて、ちっちゃいお子さんいるから来れないという方、7人くらいの方からちょっと意見を預かっていまして、皆さんぜひ屋内で過ごせる、みどりで過ごせる場所が欲しいという声をたくさんいただいているので、今日は代わりに伝えに来ま

した。あと、放課後の小学生とかもここで過ごしていいのかどうか、全く児童館が無いので、ちょっと居場所的にこういうスペースとか、南小学校を使えばいいのかなと思ってんですけど、その辺ここの場の利用については、今後どういう進化とか…

●市長

まず、子供たちは全然放課後、会議室利用してないときはもうフリーに使ってもらって大丈夫ですし、出張広場の場合は、予約を入れ、予約が空いていればというか、先に予約入れていただければ、えっと主体者は、その出張子育てとかをやっている…

○参加者3

学園とかで出張子育てをやっている…

●市長

やっているとありますね。そういうところが今後使いたい？もう全然、別にクッションフロア持ってきて、その人たちというか、その事業者さんが持ってきて、ここでちょっとやるみたいなの？

○参加者3

やるとか。あとはもしくは、私たちみたいな民間の団体がここを予約して、そういうのをやったりとか。お金を取るのはいいのかどうか…

●市長

なるほど…。今日施設責任者がいますので、お金を取ってやっていいの？お金を取って、子育て支援の何か場所にしたり…

○スポーツ施設課長

営利目的でなければ。

●市長

営利目的でなければいい？今のような子育て中のお母さんたちが、ここで集まるような場所にするのは営利目的ですか、そうじゃないですか？

○スポーツ施設課長

今のお話では、営利目的とは私の方では捉えませんので。

●市長

良い判断しましたね。OK ということで。まあ駄目って言ったら、いや営利じゃないでしょって言おうと思ってたんですけど、いや流石です。

○参加者 3

今その…いろんな団体さんも活動していくに当たって、利益じゃないですけど、やっぱり費用が必要なので…

●市長

全然そういうね、極端な儲けとかじゃないんで、かかる実費とかはそれは営利とは言わないと思うんですよね。その辺は、つくば市は比較的柔軟に考えたいと思ってます。ただ、明らかに何か塾みたいなのがあるんですけど、明らかに塾なんだけど、交流センターを使って教えていて、月謝とってんだけど、いや営利じゃないですみたいなことを言われちゃうとしんどかったりして。そういうのがあると、何か厳しくしなくちゃいけなくなっちゃうみたいなことがあるわけです。

○参加者 3

例えば小学校とか幼稚園に入る時に必要なバッグとかのバザーみたいなのも、どうなんでしょう。あれもなんか営利と言えば営利なんですけれど、例えば地域の人とか必要なもの、子供とか、もちろん中高年の方とかも、こういう入れ物欲しいわとか、そういうやりとりする場とか…

●市長

ここで？

○参加者 3

こことか、外とかで野菜を売るとか、そういった…

●市長

バザー、要は保育園バザーみたいな。

○参加者 3

保育園バザーとか、何かヴィレッジマーケットみたいな、ああいうイベントみたいなことは、こういう所ではやるのは、あまり望ましくない？

●市長

ヴィレッジマーケットになるとたぶん、あれは完全にそれぞれの店舗が利益目的でやって、もちろん地域を盛り上げるためですけど、それぞれ出店者がね、独立した経営者たちですから、それは何か今聞くとしんどそうですけど。バザーくらいはね…

○参加者 3

営利でなく、ボランティア的な団体さんがここを使う分には…

●市長

そうですね、基本的にはあんまり堅苦しいことは言いたくないので、どんどん皆さんに使ってもらいたいというのがスタンスですけど。ちょっといい御提案だと思うので、少しこちらでもどっから線引きをどうするかみたいなのは、少し考えてまたお返しをしたいと思いますので。ぜひね、そうやってどんどん使って欲しいんです本当に。あとは、もう1つちょっと話しましたけど、今放課後の居場所ということでは、ここにちっちゃく書いてあるんですけどね、実はアフタースクールっていうのをやりたいと思っていて。それ何かって言うと、今学校から出なくちゃいけないじゃないですか、放課後。もう学校から出ないで、そのまま放課後学校で過ごせるようにしたいと思ってるんです。これはもう他県でやってるところがあるので、そこで NPO が運営してるんですけども、もうとてもいい仕組みで、学童保育もあれば、放課後子ども教室というのも上手く組み合わせてですね、大体その学校の3分の1ぐらいの子供が利用してるわけですよ。例えば、みどりので言ったら、みどりのの子供たちが放課後、別に学童とか行かないで、教室に残って、教室とかいろんな所に。そこに何してもいいわけです。地域の市民先生みたいな人が来て、何かいろいろ教えてくれたりすることもあるれば、宿題もしやらなければ、私は宿題はむしろなくしたいと思ってますけど、宿題や勉強してもいいと、何か作ってもいいと。そういう場所に学校をしていこうというので、実は今年、放課後 NPO アフタースクールっていう団体なのでホームページ見てたらすごくいろいろよく分かるんですけど。そこと一緒に今準備をしてですね、来年からお試しで、沼崎小学校というところでちょっとやってみます。ここで課題をちゃんと洗い出して行って、これだったら広げられそうだなと思ったら、順次、市内全域で、全部でできるかわかりませんが、やっていきたいなと思っています。そうすれば、その学童に行くとか、塾の習い事とかそういういろんなものが、場所によっては、学校の中でその塾的なことをやったりしてる場所もあって、それがどうかっていうのはちょっとつくばで

は検証していきますけれども、そういう場所に放課後の学校をしていきたいと思っているので、それはちょっとまだちょっと数年はかかっちゃいます。

○参加者 3

ありがとうございました。

●市長

はい、ぜひ子育て中のお母さん方の声をどんどんいただけると。

○参加者 4

よろしくお願ひします。子どものスポーツに親しむ話で相談があるんですけど、部活動の地域移行に伴って、今までは部活動に気軽に参加できていた人が、お金がかかったりとかというのがあって、間口が狭くなって、子供たちが気軽にスポーツを親しめる環境になって欲しいと思うんですけど。1個目は体育館の話で、体育館は市にいっぱいありますけど、気軽に使えなくて、予約が一杯になっていて、例えば子供とバスケがしたいなと思っても、予約で埋まっていて、予約の日の27日前から予約ができますよとなっててもとれません。ちょっとした思っても予約できない日は無理かとなったりします。なので体育館に関しては、例えばですね、月に1回でも2回でもいいから、予約なしで子供たちが行って土日のどちらか半日だけでもいいから予約なしで子どもが使えるような時間を設けられないかという相談です。

もう一個は公園の話で、公園で、例えば壁とかネットを一つあるだけでも、そこで何か練習ができるとか、ボールを投げてみたりとか、テニスの壁打ちしてみたりとか、ちょっとしたそういう自分で練習する、気軽に予約なしで使えるものが、ちゃんとした設備じゃなくても、一つ壁があったり、一つネットがあるだけでも気軽に利用できたりするんで、ちょっとそういったものを検討していただけないかっていう御相談になります。

●市長

はい、ありがとうございます。何か、おっしゃるとおりですね。気軽に行けないってというのは、やっぱりちょっと問題だなと思っていて、今実は団体がすごい活発なので、つくば市の場合は、かなり激しい予約の取り合いがあつてですね。実はちょっと去年も何団体か、問題のある団体がいたので、そういうモラルに反するような行為はできないようにルールを変更したんです。それくらい激しい取り合いをしているんですけど、ただ本当にね、月にね、一片の半日ぐらいとか、

これぐらいだったら何か。実は、ちょっと少し別の形でも、もう少し気軽に校庭とかで遊びたいんだけどみたいなお話をいただいたりしたこともあったので。そうですね、ちょっと教育施設課というところが所管しているので、そこでどういう余地が、今開けようがあるかとか、多分事前に分かってればね、市の公式行事やるときなんかは、そこはもう取れないことになるわけですから。ちょっと相談をしてみたいと思います。いや、何か、建設的な御提案だと思いますし、確かに何かね、ふら〜っと遊びに行ける日があった方がいいですよ。はい、ありがとうございます。

壁はですね、実はこの間北部公園というところですね、まさに何か壁があって、壁はありますよね。私も子供の頃、桜南スポーツ公園というところがあって、そこはまさに壁打ちできるような壁があって、テニスじゃなくてサッカーボールをそこにぶつけてたんですけど、そういうことは確かに、最近の公園だと全然無いですね、壁ってね。何なんですかねって言うてもしょうがないけど、言われてみればそうですね。ちょっとすみません、それはすぐに作りますとは言えないんですけども、どういう設計思想で、どういう壁だったら意味があるのかとか、ネットがいいのかとか。そういう、ふらっと、昔は近くの公園には、まあまあバスケットゴールなんかはたくさん設置してあって、どこ行ってもバスケットゴールの一つくらいあった気がしますけれども、それも最近はないですしね。騒音なのかな一番は多分。ドンドン音がするみたいなクレームが結構あるので、そういうのを作らなくなってるような気はしますが、ちょっと今の、どうしてそういうものが今作らなくなっているのかとかも含めて話を聞いてみたいと。貴重な御提案ありがとうございます。

○参加者 5

今現在、みどりの南小中学校保護者による学校支援組織におりまして、今、毎朝、校長先生と通学路で子供たちの交通整理のほうを毎朝行っております。

●市長

それは皆さんの仕事なんですか？

○参加者 5

大変危険だという保護者の意見がありまして、校長先生お一人だとちょっと手に負えないというところがありまして、朝来れる人で誰かいないかということで私が手を挙げて、今…

●市長

ボランティア？

○参加者 5

ボランティアで、様子を現状を見ていることになります。やっぱり横断歩道がないということと、トンネルの中も歩道がないということで、保護者の皆様もちょっと心配されているという現状がありまして、市としての対応ですとか、今後の方向性とかをちょっと、分かっている範囲で構わないのでお伺いできればと思います。

●市長

はい。実はさっきもね、私見てきました。34番トンネルから35、36、37と。結論から申し上げますと、月曜日にみどりの南に行きます。私も、教育長も、警察の人にも来てもらって、ちょっとみんなでもう、あと道路系の市の職員とかも連れて行きます。認識を合わせて、対策が何がとれるかをその場で決定をしたいと思っています。明らかに今の状況は危ない。あんな状況を作ってはいけないと思います。ちょっとどこまで発言をするか難しいところですけども、明らかに判断に、要は許可をしてはいけない場所が許可されてしまったということが、大きな問題だと思っています。それは、そういうことをいろいろ細かいところまで知ったのは最近なんです。参加者2さんにいろいろお話いただいてから、いろいろ確認をしたんですけど。あの状況はやっぱり起こしてはいけないと思っていますので、ちょっと学校もですね、一度決定してしまったことを、やっぱり覆すことにちょっと苦慮してるようなところがあるようですので。そんなこと言っても人が死んだらどうすんだと私は思いますので、もうみんなで行って、みんなちょっと解決策が、どういうことがあるかというのを考えて、取れるオプションは何かというのを見て、恐らく少なくともすぐできることっていうのは、そう多くないでしょうから、通学路の一旦変更はお願いしないと、構造的には今厳しいだろうなとは思っています。そして、それを何かこう、皆さんのボランティアに、ボランティアはありがたいんですけど、頼るのもまたおかしな話だとは思いますが、ちょっと学校にも、学校もね、いろいろ保護者から声があるというのは、要するにそこを通りたいという保護者の声があるというのは聞いていますけど、それでいざ、みんなが危険性を指摘しているのに、大きな事故があって、後から慌てて対策するというのがお決まりのパターンですが、そんな分かりきったことをするわけにはいきませんので。私が行きますので。御負担をおかけして申し訳ないです。やっぱり良くないですね、そういう状況になってしまっているのは。申し訳ないですが、そういう状況を、ちょっとすみません、ちょっと言い

くいこともあるので、あれなんですけれども。隠してるわけじゃなくて、何かを責めてもちょっとしょうがないので。過去の判断は、明らかにまずい判断がされていたと思いますけど、それを責めるというよりは今変更していかなくちゃいけないという思いでいます。

○参加者 5

ありがとうございます。

○参加者 6

今日はこの近くに 30 年前まで仕事で勤めていたんです。

●市長

あ、そうなんですか。へえ。

○参加者 6

非常にここら辺が変わっていて今日びっくりしました。

●市長

変わったところじゃないですよ。道がわからないですよ。

○参加者 6

いやいや、初めてそういうこともあって、わざわざ今日タウンミーティングこちらでやられるというので来ました。質問の件なんですけれども、先ほど市長の話の中で、交流センターについて、たまり場とそれから相談とかなり身近なものに感じつつあるんですけど。そのたまり場という機能ですね、一体どういうことを期待されて、たまり場に期待しているかということ、ちょっと皆さん、17 の地域にあると思うんですけど、それぞれ地域によっても違うと思うので。そこら辺何を期待するかというようなことを議論するような場をつくっていただけたらどうかなと思います。御提案かたがた…。

●市長

えっと、たまり場で何をするかを地域で議論する場を作る？

○参加者 6

はい。そういうことです。

●市長

ぜひやっていただきたいですね。私なんでこのたまり場というものにこだわってるかという、やっぱり、何か決められた形だと、みんなしんどいんですよ。こうやって決まっていかなくちゃいけないと。そうではなくて、少し牧歌的な話をすれば、やっぱりノスタルジーじゃないですけども、私が子供の頃ぐらいまでは、その辺で、なんか人は勝手に集まっていたし、路地で井戸端してる人たちもたくさんいたし。何かいろんな情報が地域の中で伝わって、何か必要なことが行われていたようなことがあったわけですけど。もう、今そういうものはないと。子供たちの居場所もあんまりないと。さっき言ったようにですね、学校が使えないとかですね、そういうことがあって。でも、やっぱり地域の、特に歩いて行ける範囲にある、行きたくなるような場所があると、そこが1つのコミュニティの起点になるんじゃないかという思いがあるんです。それも、しかも重たなく、ちょっと違えばまた離れられるような、そういうほどよい距離感の場所というのは、多分、今この令和の時代の日本にはそんなに多くなくて、サークルとかに入っている方はいいんです。行けるから。そこで上手くいってれば全然それで良くて。そうじゃなくて、特に何かやることもなかったり、なんか億劫だけど、でもまあちょっと行ってみようかなみたいな場所があることがすごく大事だと思っているので。たまり場の定義は、そういう意味で広いんですね。たまり場と我々が呼んで今回やってるところは、さっきのですね、こういうこともちょっと子育て関係の皆様、親子の子育て支援センター。これはですね、今、日曜日開いてないんですよ。これも日曜日開きますこれから、夏から。それから、児童館なんかも、今閉まってるんですけど、児童館も土日、もう例えば中高生とかがそこに行って勉強してもいいし、別にふらっと親子でももちろん遊びに行ってもいいし、そういう場所にしていきます。ただごめんなさい、児童館はまだ今年は夏から3園実験的にやってみて、どんなふうになるかというのを見てみます。これはけやき広場ですね、桜庁舎にある。ここはやります。児童館はそういう意味で、ここから近いような所だと、まあ近くはないかな、荃崎の児童館のところちょっとやったりするので。それから福祉センターのお風呂をリニューアルしてますね。これも荃崎なんですけど、ここからそんなに時間かからないかな。ここから何分くらいだろう荃崎の福祉センターって、20分くらいかかっちゃう。これは実は今までもお風呂はあったんですが、すごいちっちゃくてしかもなんか、4時ぐらいに閉まっちゃうみたいな謎の感じだったので、でもうボイラー壊れたから廃止しますみたいな話だったんですけど。いやいやお風呂大事でしょうって、修理をして、ちゃんと男女に分けて、ある程度大きく、人が入れるようなお風呂を計画中で、そういうのもまさに用がなくても、とりあえずお風呂

行くからって、その後ね、その隣の部屋とかで何かのんびり過ごしていく中で、実はそこでなんてのはその隣に地域包括支援センターってのがあるので、やっぱり困った時はそこで相談できますよみたいな場所にしていきたいと思ったりします。それからですね、森林バンクという、これももう全く…。何か格好良くなりましたね。変身して来たんですか。

○他の参加者

私これ忘れないように。

●市長

みどりの南の立哨じゃないんですね。

○他の参加者

私は谷田部小学校地区の安全協会の委員なので。谷田部地区担当です。余計なこと失礼しました。

●市長

ありがとうございます。森林バンクというものです、これも新しい施策で、森が荒れ放題なんです。みんな持っているが管理できないと。それを希望する人に貸しますと、管理する機材とかも貸します。だから森をたまり場にしてくださいと。これちょっと私も借りたいと思ってますけど。実は私もある地域の土地の森を借りてたことがあってですね、それはもう所有者さんに返したんですけど、森でのんびりできるような場所を作るとか。あとインクルーシブの公園とかですね。そういうふうに、たまり場といっても、もう高齢者向けから子供向けからもう多世代、いろんな形があって、一概にこれがたまり場だよってというのは言えないんですけど。みんなが、家でもない、職場でもない、別にサードプレイスと呼ぶまでもないんですけども、ふらっとなんとなく行けるような場所をたくさん作って行って、そのたくさんの居場所が、そこでいろんな関係性ができていくことによって、分厚い、市民社会とまではいかななくてもですね、いろんなつながりが生まれてきて欲しいなという思いでたまり場を進めているというところでございます。そこでね、地域の皆さんで何か話し合ってもらってどんな使い方をするかというのは、議論していただけたらいいですけど、それはあんまりこう、何か計画作りましょうみたいにしちゃうと、たまり場の良さである緩さがちょっとこうなんかカチツとしてしまう気もするので、その辺のさじ加減はやっぱり何か皆さん主体でやっていただく方がいいなっていうのは、印象としてはちょっと思っていますけど、いかがでしょう。

○参加者 6

はい、市長の考えは分かりました。ただね、そういうたまり場の運営してるところの人たちも、地域のやはり一つの核として、そういう意識付けとか、そういったものも欲しいなと思います。単に場所を貸すだけでなくですね。みんなで話し合っただけということも必要じゃないかなということ。

●市長

はい、何か徐々になっていけばいいと思うんで、やっぱりこの間も子育て団体の皆さんと話してて、なんか最初は利用者としてそこに行っていましたと、気付いたら何か巻き込まれて運営側になってましたと、それ一番いい形だと思っています。そんなふうになったらいいなと。

○参加者 6

年齢的に、もう高齢者も子供さんも皆集えるような中で、交流ができるというのはいいんじゃないかなと思います。

●市長

ありがとうございます。

○参加者 7

スタンスとしては集会所等の公益施設ですね、についてはやはり有用でコミュニティの中においては必要だとそういうふうに考えています。具体的にはですね、参加者 1 さんというか、一番最初に申し上げた島名福田坪地区区画整理事業第 8 回事業変更っていうのが今行われています。その中で、この集会場は不要だということで、その計画案のですね、4 番にはですね、集会所用地をなくして、用途変更を一般住宅地にしますと。これ聞いてみるとですね一般住宅地ですから集会所じゃなくて、参加者 1 さんが心配してるように、公園の近くにこの一般住宅が建つと、そういうことに繋がりますので、その辺のところ私も審議員っていう役員をしていますから、区画整理の審議会の中でも、やはり、私も審議員と言いましたけど、それと同じようなですね、やはりまちづくりの中では、コミュニティの中では、せつかく先輩方がですね、30 年、40 年前にですね、公民館と集会所と、そういうものが必要だということでちゃんと作ってきたわけですので。それをですね、市がですね、どうもアンケートをとったら不要だと、そういうようなことなので一般住宅地にすると、それを受けてですね、事業計画変更っての

は今行われているわけです。ですから、その辺のところを調べるとですね、ちょっとおかしいんじゃないかなっていうのがあるんですよ。例えば市はですね、つくば市開発許可の手引きっていう第3章で開発許可の技術基準っていう中ですね、デベロッパーの開発、区画整理の中でもデベロッパーも開発してますので、そこにおいてはですね、集会所つくれと、そういう基準でね、業務命令じゃないけど、そういうつくば市でですね、開発で、事業者に作らせてるんですね。市自身がですね、コミュニティのためには集会所が必要だと、そういうふうな大義名分っていうか、そういうことでやったりしてるのに、今度の島名福田坪のね、区画整理の中では、必要ないよというのはですね、ちょっと矛盾してるし、二重基準だと私は思います。ですから、その辺のところ、やっぱり市はちゃんと言ってるんですから。集会場は必要ですよ、コミュニティの中には。それで開発するにはこれは必要ですよと、絶対不可欠ですからってなってるんですから、やっぱりそれはですね、このアンケート取ったからどうのこうのじゃなくて、ちゃんと事業計画の変更で取り下げしてほしいとそういうふうに考えています。それからもう1つ、どうも市長のさっきの発言では、住民自身がですね、地区の人が決めて判断すると、いろいろそういう問題が出てきたので、今はね、住民自身が判断すると、そういうことで、どうでしょうかって県に伝えたところ、それまでは、じゃあそれまでは待ちましょうということで、住民の判断ができた時点です。ね、協働課も言ってますけど、住民のこの判断がある公民館なり、集会所なりが必要であればちゃんと用意しますよと言ってますけど、その辺がですね、まず基本は、市自身と、今までの経緯からね、変わってないわけですから、やはり集会所っていう今までのやつを取り下げて、そういうことがまず基本です。それ抜きにですね、また何かアンケート取ったらですね、アンケートの取り方もですね、疑問のところがあります。まず今、市長は電子投票とかいろいろありますが、十分にですね、熟議なんか取れないです。アンケート見たことあると思いますけど、最後に個人情報を書いてよと、最後にね、集会所必要ですかと。そうじゃないですね、やっぱり集会所というのを、新しく来た人たちが集会所の意義なり、集会所というものを知ってですね、そして必要だっていうね、そういうことを広報してからちゃんとやると。それから、確かにですね、ユーティリティーって言ってね、そういう現代の、それもですね、正確にちゃんと話しした上で、判断求めるっていうのがね、必要じゃないんですか。

●市長

はい、おっしゃるとおりで、本来、我々はそういうふうに判断をしたい…住民の皆さんの意向が、あくまでも大事ですから、それを前提に考えていたんですけども。一旦ですね、とにかくもうデッドラインここまで返事をして、そうじゃ

ないと、県としてはもう売却だという話があったので、いやいやという話をして、他の場所なんかでもそういうせめぎ合いをしてるわけですけど。今回また改めて地元の皆さんからそういうお話をいただいたので、それを踏まえて、県と話してですね、あとはちょっとさっきの繰り返しなので、もう繰り返しませんけど、そういう形でやっていきたいと思ってます。ただ、必ずここに作りなさいよっていうと、結局ね、それはそこに今度住んで住まわれる予定の方が、かなりの金銭的な負担をすることになりますので、それをやっぱり市で決定するのではなくて、じゃあみんなですべてやっぱりそういう話し合っていくというのがやっぱりこれからの自治の形だと思いますので、それまでしっかりと県と話をしていくということです。あとは、先ほどお答えしたとおりです。私も、地域のいろんなスペースは当然あった方がいいと思ってます。あった方がいいと思ってますし、望ましいと思ってますけど、それを強制はできませんので、市として、そこに必ずここ集会所にしないと駄目だということは、やっぱり言えないわけですよ。

○参加者 7

地域の人が、コミュニティのために必要だという一般論ですね、それからいろんな事例をよく分かってないっていう感じもあります、あると思うんですね、新しく若い人たちが来てるという中ではですね。ですからその集会所っていうかね、そういうそのたまり場っていうことかもしれませんけど、そういうですね、今のやつの地域の人が判断できるようないろんなですね、先進事例から地域のね、集会所というものを、例示して、市がですね、そういう情報をちゃんと例示して、そして判断できる十分な、情報なりそういうものをですね、話をしながら、地域の住民と詰めていくと、そういう作業が必要だと思うんですね。一片のアンケートだけでは、前例から言うところちょっとダメなんじゃないかなと。

●市長

そうですね。情報がね、ちゃんとあって、イメージを皆さんにしっかり議論をしていただいて、それで判断いただくというのが良いと思いますので、そこは当然丁寧にもうちょっと（人が）張り付いてきたらやりたいなと思ってますし、そのプロセスが本当に大事だと思ってますので、御指摘のような形で、やっていきたいなと思ってます。ありがとうございます。

○参加者 8

いつもお世話になってます。私の質問というか、お願いというか、高校に関してなんですけど、つくば市には高校を新設する予定がないということで、牛久栄

進高校の方の増員が今年からされたと思うんですが、みどりのから行くと、いったん牛久栄進高校から遠ざかってもう1回戻って来る形になってしまうんですね、公共交通機関だと。北のつくばエクスプレス沿線の人たちの人口増加によるものだと思うんですけども、栄進高校の増員は。でも、つくば駅が最寄り駅の人以外は、みんないったん遠ざかってからしか公共交通機関で栄進高校に通えない状況で、みどりの駅からバスを出していただければ30分から40分で着くと思うんですが、いったん遠ざかると1時間以上かかってしまって、とても無駄な時間で、部活を終えて帰って来ると21時過ぎてしまったりする感じになってしまって、学力の低下にも繋がるかなと思います。つくば駅や最寄り駅の人以外も牛久栄進高校に行きやすい交通手段っていうのを考えていただくことができますか。

●市長

はい、牛久栄進ピンポイントの話ですね。そうですね今、全体の話をちょっとすると、そもそもバスの運転手が足りない問題っていうのがあってですね、この2024年の4月から、週末なんかつくバスも33%減便しなくちゃいけなくなっちゃったんですね。なぜかという、4月から法律が変わって、ドライバーの残業がすごい厳しくなったのでもうできないと。私今までつくバス一生懸命増やしてきたんですけど、初めて劇的に減らさなくちゃいけなくて、これ全国で起きている問題なんですけど。今、バスを増やすというのは、かなり事業者さんをお願いをしても、お金の問題というよりもドライバーがいないという問題で、相当厳しい状況が実際あるだろうなと思っています。実はスクールバスを今県立高校とかでも、保護者の皆さんが運営してるような形態が、県立高校でも多分下妻なんかあるんですね。それは、そういうところで保護者負担がすごく高いというので、つくば市で、今年から新しく高校生の通学支援の3万円の補助を始めることにしたんですけども。みどりのから牛久栄進は、確かに遠回りになりますよね。

○参加者8

Uターンする形に。

●市長

ですよね、V字描いてる感じですよもんね。悩ましいですね。すみません、今すぐそれができますかと言われたら、ちょっと現実的に、それ例えば関東鉄道にお願いしてもできませんという答えが返ってくるわけですよ。すみません、いや行っていないから分かりませんが、何とかならないかという交渉をして、やって今の状況でぎりぎり33%減に何とか留めたので、それぐらい今ひどい運転士不

足が全国で問題になってるんですね。ただ、それに対してちょっとすぐ榮進について話にならないんですけど、今つくば市でやろうとしてるのは、ドライバーバンクという、まだ全国にないんですけど、を作ろうと思ってます。そのドライバーバンクで、いわゆる2種免許というタクシーとかバスを運転する免許じゃない、1種免許、皆さんが持つてる普通の免許で人を乗せてお金をもらって運転できるような仕組みを、実は作ろうとしていてですね。そこでさらに、その人たちがうまく育って2種免許まで支援したいなというので。これ国の補助金を数億貰えることになったので、今牛久市とか、土浦とか同じ問題をみんな抱えてるので、みんなでもう地域でドライバーを育てようということをやっているんですね。そういうところで育ってくれば、段々ねそのスクールバスとかそういう方に運転手を回すこともできる未来を描いてはいるんですけど、ちょっと今なかなかですね、やりますっていうのは、厳しいですよ。何かね、いい案があるといいんですけどね。自転車じゃちょっとね、怖いすもんね。そうですね。何かいい解決策思いつく方いますか。いましたね、聞いてみましょう。

○他の参加者

僕、提案したいなと、最後に言おうかと悩んだんですが、市長さんが言うておられる筑波大の自動運転バスね、人工知能バス。こういうのをまず利用することで、バスルート、つくバスを再編するっていうのはどうでしょう。

●市長

はい、ありがとうございます。

○他の参加者

遠くを結ぶのは運転手あり、近くのコミュニティの中で走るのは運転手なし、AIバス。なんとか便を、つくバスの便を増やしていただけるといいなと僕はお願ひしたいなと思っています。

●市長

はい。ありがとうございます。いや、それもソリューションの1つではあると思うんです。今、筑波大の中で、この間自動運転バスを走らせて、ただ人が乗っていないといけないんですね、結局ね、今の法規制だと。これをつくば駅の方まで伸ばそうと思っているんですけども、人が乗るような路線で、バスと相性が本当に自動運転って結構いいので、単純な道であればいろいろできる。ただ日本結構法規制が厳しいので、実は他の町でやったりもしてるんですが、毎年1億円の赤字とか出して1路線走らせてるみたいな状況で、それだと全く持続可能じゃ

ないので。それをどういうふうに採算性も取りながらやるかというのを、今つくば市では民間企業といろいろ進めてるんですね。そういう自動運転のシェアリングのサービスなんていうのも今やっていますね。栄進にどっかまで行ってバスに乗るっていうのは、つくば駅以外のオプションだとどういうところがありますか。他にはない？ここからだ。

○参加者 8

つくば駅からひたち野うしく駅の便しなくて、それ以外が全く無い状況なので、どうしてもつくばエクスプレス沿線の人がつくば駅に行くしかない状況なんです。

●市長

栄進はスクールバスを出してるんですか。

○参加者 8

出していないです。

●市長

出してないんだ。

○参加者 8

とても行きづらいです。つくば駅が最寄り駅の人には便利かもしれないですけど。あと雨の日がすごく混んでいて、すごい渋滞で、いつも乗れるバスにも乗れない状況でとても大変です。

●市長

はい。何とかしたいんですけど、いや本当にね。バスの問題は悩ましくてですね、だから一生懸命増やしてこれまでやってきて、ワークショップとか地域の皆さんと一緒に開催して、どこにバス停作るかとかそういう議論をかなり積み重ねてきて、それに来てるこの2024問題なので、私もちょっと打ちひしがれてるところがあるんですけども。いやそういうお困りの声がね、たくさんあって、すみません、ちょっと何か今すぐこれならいけますっていうのが言えないのが申し訳ないんですが。今お子さん何年生ですか。

○参加者 8

今年入学しました。

●市長

今年入学。

○参加者 8

入る前にはここまで重く考えていなかったんですけど、やっぱりバスとかが遅れたりとか、つくばエクスプレスも着いてすぐ来るとは限らないので、1時間以上結局はかかってしまうし、定期代も年間10万円どころか、毎月2万円もする定期代を払っている状況で、なんか県立入ったのに結構お金かかるなと思ってます。時間もすごくかかるし。バスが出てくれば、本当に半分くらいの時間で着けるっていうのが、すごくもどかしくて…

●市長

結構みどりのから行ってる人は多いんですか。

○参加者 8

たぶん今年も15人くらいで、来年からはもっと人口が増えるので、どんどんどんどん増えていくはずですよ。3学年合わせると結構な人数になるのでバスも満員になるかなと、採算とれるかなと。毎日みんな通うものなので…

●市長

はい、多分、もしある程度のまとまりになると、本当に保護者会みたいな形でバスを借りて運営してるケースがあるので、そういう情報提供はちょっとできるかなと思って。我々ももう少し調べて、またちょっと御案内を差し上げたいと思いますので。すみません、市で明日から出しますとかって言いたいんですけど、ちょっとね、正直ね、これは何かね卒業に間に合うかと言われるとちょっと厳しい…。なので、そんなに子供たちがいるなら、何らか、フルのサイズのバスじゃなくても、その希望者で何らかの運営する仕組みとかができるといいのかなとちょっと今思いましたので、それもなんか1つのコミュニティの形なのかなと思うので、ちょっと他でどういうふうに工夫してるかとかっていうのは、こちらでもある程度集められると思いますので、その情報を提供したいと思いますので。

○参加者 8

はい、よろしく申し上げます。嬉しいです。

●市長

あ、いや、こっちで何ができるってわけじゃないですからね、市が動かすわけじゃないですからね。保護者会の運営がどんなね、そうそれで、もちろん我々もできるだけのサポートはもちろんしますし。そういうのでも3万円は使えると思いますから、今度から出す。もうすぐ秋ぐらいからちゃんと申請ができるようになる予定ですので、お使いください。

○参加者 8

はい。よろしくお願いします。

○参加者 9

日本文化発信の活動をしています。今週も中国の浙江省から20名ほど、日中文化交流のために来訪されるお客様をお迎えする予定です。我が家には、市長もよく御存知だと思いますけれども、丹頂鶴をはじめ、今20羽以上孔雀ですとか、珍しい鳥を飼っておりまして、100種類以上の花が咲き乱れております。ぜひ地域の皆様のお役に立てるように、今年の夏休みには写生教室のようなものを開いて、心の美を育てる、美育活動ということを進めていまいりたいと思っております。今のような活動をするためにも、実は、発信基地として美育美術館をつくりたいという思いで、長年目的として活動してるんですが、なかなか場所が選定が難しい。やはり日本文化というのは自然との共生が主ですので、できましたらつくばのような古民家が多く、また科学技術都市ということで皆さんの意識もすごく高い、海外からのお客様も多くいらっしゃる、そういう地の利をいかして、この場でこの美術文化を広げる活動をしたいと思っております。みどりのの駅の近くに実は、とても緑が美しい場所がございます、これから少しでも地域の方の御意見をいただきつつ、そこで何か、先ほどのたまり場ではないですけども、きちんと目的を、日本文化発信という目的を持った場づくりをしたいと思っております。ぜひ市の御協力をいただきたいですし、今すぐどうこうという事ではないんですが、できましたら、先ほどのお話の中にもちよつとなかったようなので、つくば市としても芸術文化活動への支援のようなことをお考えでしたら、この場でお話を伺えればと思います。

●市長

はい、ありがとうございます。参加者9さんからは以前から伺っていて、何かみどりのの場所についてもお話いただいたので、市からお金が欲しいわけじゃなくて都市計画の方をと、それはもうできるだけいろいろ柔軟に対応できるものは、ルールは変更はできないんですけど、ちゃんとどうすればそういうの

が実現するかというのを、今私の都市計画のスタンスは、何か新しい開発をしたい方には、徹底的に寄り添うということでやっていますので、お話を聞いていただいてあったんですが、何かその後私も少ししてから聞いたら、まだいらしてないというようなことだったんですけど。その辺って何か聞かれていますか？特に聞いていないですか。

○参加者 9

今直接は市とはやりとりはしてないです。

●市長

そうですね。場所が決まっているならば是非具体的に相談来てくれますよと、もう部長にも伝えてありますので。そういう御相談をしてくださいと一応伝えてあってですね。もちろんルールが駄目な場所ではできませんけれども、それが駄目な場所って言っても美術館だと比較的柔軟なんじゃないかなと思うんですけど、都市計画の中でも。

○参加者 9

では今度改めて、うかがわせていただきたいと思いますと思うんですけど、そうするとこちらへ…

●市長

都市計画部の中の開発指導課というところが所管していますので、後でちゃんと御案内、終わった後にお知らせします。逆に計画、事前にこの辺って言っていただければ、確認してそれから打合せってこともできると思いますので。というのが、それに対する最初の答えで、もう1つの文化芸術はちょっと時間がなくなってきたのであれですけど。つくば市でとても今施策として弱いところはアートの部分だと思っています。今実は私もいろんな音楽関係の人たちともこの間やったんですけど、アーティストと一緒に意見交換をして、一体つくば市でどういうものが今必要かというようなことを始めています。あわせて、子供たちがやっぱり芸術に触れる機会ってというのが余りに少なくて、今までは各学園です、ね、18万円みたいな予算だったのを、実は今年の予算はトータルでいうと大体子供たちの芸術は10倍ぐらいにしたんですね。1つの学校で50万円の予算で、その中で地域のいろんな人たちにお願ひしたり、或いは誰かをまた呼んできたりというようなことが、各学校で柔軟にできるようにして、少しでも本物に触れて、教科書で学ぶだけではなくて、地域の皆さんだったり、自分で体験をしてみたりというようなことをどんどんやってもらいたいなど。そういうことをやっ

たりしながら、含めて文化芸術拠点を、今度、田水山小学校という少し北部ですけど、そこでいろんな創作活動ができる場所をつくっていくとか。そういうことを一生懸命やっています。

○参加者 9

ありがとうございます。

○参加者 10

はじめまして。私は五十嵐市長に対して1個上ですので友好的な質問をさせていただきたいと思います。先ほどのお話になかったと思うんですけども、私が聞きたいのは災害対応についてなんです。行政のやっぱり最優先事項は、市民の命をいかに守るかというのが最優先だと私は思っていますので、その視点から言わせていただく御質問になるんですけど、まずですね、市長のフェイスブックにもたしか載っていたと思うんですが、災害マップがあると思うんですね。そこで俯瞰して見ていただくと、AEDが設置してある場所が大分集中してるところだったりとか、間が空いていたりするんですよ。AEDが適切な距離って110mだと思うんですけど、まあそれは理想的な話だと思うんですけども、ちょっとそこを埋めるような努力は早い段階でしていただきたいなというのと、当然AEDなんで24時間使えるように、何か外に出してガラスを割ってすぐ使えるとか、そういったところはもう前向きに、ぜひやっていただきたいなといったところが一つ。先月くらいだったと思うんですけども、危機管理課ですかね、市長のところの組織にある危機管理課にお電話した時にですね、私が陣場のDなので、谷田部小学校が一番近いんですね。そこにですね、AEDがありますと。ちなみにそこにじゃあ台風が来たときに、どう対応するんですか、谷田部小学校浸水エリアのすぐ横ですよって言ったんです。水位見てから言ってくださいって言うんですよ。ちょっと笑っちゃう話じゃないですか。なので、ちょっと人の命や市民の命に関わる話なので、AEDの件もそうですし。そのスイスチーズモデルじゃないですけど、次の次と、そういったところは市長はすぐお分かりだと思うんで、真剣にお考えください。

●市長

はい。AEDはですね、すごく重要だと思っていまして、実は筑波大の先生と一緒にそのAEDの搬送のモデルというのを実験したって言って。それは登録しておいてもらって、企業とかの協力を得て、有事の時に持っていけるような仕組みをどう作るかみたいなことを進めているというのが1つあります。

確かに空きはあって、ばらつきがあって、それは多分、空間的なばらつきだけで見ても、多分しょうがなく、人口の張り付き具合とも合わせて、どれぐらいカバーしなくちゃいけないかというのを見る必要があるんだろうと思っていますが、お話あったように、例えば学校の中にAEDがあるケースって結構あるので、それは外に出そうよということは言って、ちょっとお金もかかるんですけど、それは順次ですね、この間もうある場所で、そういうことをちょっと外に出してもらおうようなことをしてきてます。やっぱり、いざというときに、鍵がないから使えないっていうのはこれ話にならないので、できるだけいざ防止とかっていう事はあったとしても、外に出していくべきだと私は思っています。それから谷田部もですね、谷田川のいろいろな基準が変わってきたりして、今度、県も谷田川の要害橋の所の先の河川改修などをしていって、今年度からもう始めていくはずですけども、8年度には終わるはずなんですけども、いろいろと県のタイムスパンは少しよく見ないといけないんですけども、そういう形でエリアとして、今すごく狭くなってる場所があったりして、増水してしまうケースがありますので、そういう対策は、これはどちらかという県なんですけどもやってます。今の、避難については、これはですね、今つくば市で本当にやりたいと思ってるのは、もう少しリアルタイムで、自分が今の位置からどの方向に行くことが最も望ましいかというのが分かるようにしたいと思ってるんですね。さっき言ったつくスマというアプリに地図機能あるんですけど、まだ全然使えてないですが、これを、例えばここが通行止めになっています、ここは越水してます、だからこっちから、避難所としてはここが開いていて近いとしても、その近くに川があったとしたら、その川を渡って避難しようっていうのはやっぱりおかしい話なわけですね。だから、そっちはリスクが高いから、こっちに避難をするようなことを誘導できるような仕組みが必要なんじゃないかと思っています。そこまできてるのはなかなか世界でもないんですけども、でもスマートシティとか言うからにはですね、少しでもそれに近いものにしていって、それぞれの人がその位置から、適切な避難所が分かるような形を作る必要があるだろうと思って、少しでもその構築を急ごうという話を先日もしたところです。ですので、すみません、水位見てからというのは、何と云うんでしょうね、確かに水位は見なくちゃいけないんですけども。ただ、それですべてを投げてしまうのは、やっぱりちょっと違うと思いますので、職員には話をしておきますが。その時によって本当に、何でしょう、同じような災害でもかなり状況が違うので、避難所を開ける時っていうのも、毎回その個別の状況を見ながら判断してるっていうのは実際そうなんです。職員は水位を本当に見ながら、いろんなパターンを考えて、開けて、こっち開けるとこうなっちゃうからこっちを開けた方がいいかなとか、それなりにいろんなことを考えながら開けているので、ついそれをお伝えして

しまったんだと思うんですけども。そういうふうなものではなくて、できるだけ分かりやすくお伝えをできるような仕組みを作っていきたいと思っていますし、防災については、本当にいろいろな取組…ちょっと今日とても御紹介しきれいていませんけれども、いろんなものがありますので、そういうことを少しでも早く実現していきたいと思っています。よく伝えます。ありがとうございました。

○参加者 11

みどりの駅前のトンボ池について御質問させていただきたいんですが。あそこは開発前は自然豊かな非常に素晴らしい場所だったんですけども、開発の途中では、つくば市からも萱丸地区については…

●市長

マイクを少し近付けていただいてよろしいですか。

○参加者 11

はい。地区周辺の緑と連続性に配慮するとともに、自然を積極的にいかした西谷田川などの水と緑のネットワークと新しい田園スタイルの実現に資する街並みの形成を図り、地区内において云々というのがあって、西谷田川と一体となった公園など身近な公園の整備、トンボ池を保全した緑地の整備、周辺の環境との共生に配慮した緑豊かなまちづくりとあって、積極的にトンボ池を良くしようというふうにしてもらえたんですが、平成28年、市長が当選された時期に、それでどさくさに紛れたのかどうか分かんないですが、この環境白書の総括では、萱丸トンボ池については、萱丸地区内に所在するトンボ池について、希少種と水辺の保全を図るため、自然の状態を保全するよう調整を図りますと、そういうのが目的で、実績として書いてあるのが、萱丸地区内にあるトンボ池について、土地整理事業実施URと、土地所有者茨城県と協議を実施するとともに、庁内の関係各部（上下水道部、建設部）と協議を行い実施しました、とあるんですが、

●市長

実施しました？トンボ池の今後の方針ということで、よろしいですか。

○参加者 11

はい。

●市長

そのどさくさ紛れがちょっといつのタイミングがわかんないんですけども、私になってからなのか、私なったの後半だったので、なる前なのかわかりませんが、今、整備を進めていて、説明会はまだなのかもしれないですけど、もうやったのかな。まさに先ほどお話があったような環境共生型の、水辺も含めた公園にしていくようなものを、いろんな御意見をいただきながら進めています。進めていて、多分、もうすぐ公開できるレベルだと思ってますし、いろんなね、地域の皆さんからも、そこはやっぱり自然をいかした形の公園にして欲しいという声をいただきましたので、そうやっていく予定ですよというかも工事が、ちょっといつかわかりますかね…。

○参加者 11

ところがですね、要は、そういうふうにされてると思うんですが、上池があってその下池に、URは平成27年3月に工事完了し、萱丸地区は4つ調整池があったんですが、すべて暫定調整池が撤去されました。ただし、暫定調整池1か所（トンボ池）については、撤去せず雨水調整施設としてつくば市に引き継ぎをしていると書いてあるんです。非常に、堰堤があるために、希少生物の多様性の破壊されていますし、トンボなんかもう今あんまりいないです。雨水部分の新設をされていないから、調整池の水量が維持されないの、ノー管理だから草がすごいんですね。かつ、下流側はですね、定期的に道路が崩壊するんですよ。私が思うには、調整池から水路が、いわゆるパイピングって水路ができちゃって、それで崩壊すると思うんですよ。去年の5月に何回かそこが崩壊するんで、5月にも道路課に整備させたんですけど、ところが6月の線状降水帯の時に一発でまた割れました。だから危険な堰堤を当初の予定どおり取っていただければ、素晴らしい憩いの場所ができるんじゃないかと。

●市長

はい。今ちょっと確認を急いでしたところ、令和7年度末にはということですので、今要するに今年度末には、6年度末かごめん、今年度末だよ、今年度末なので、ちょっとすみません、地域の皆さんに情報が伝わっていないんだとすれば、それは、ちゃんと改めてお伝えするようにはしたいと…

○参加者 11

あの、暫定調整池は撤去されるんですか。あれが危ないからですね、堰堤が高いから危ないんで、フェンスがあるんですよ、人が近付けない、だからあれ、当初は撤去する予定で、URが予算ちゃんと組んでたんで。たぶんそれ、つくば市は、受けておられると思うんですが、その予算がどういう風に使われたか知らない

いんですが…

●市長

調整池はトンボ池そのもののおっしゃっているんですか。

○参加者 11

堰堤の方です。

●市長

ちょっとごめんなさい、今パース図を見て、ただ基本は計画を、そういう方針は、何か私に変更をしたということは、基本的にないので、たぶん予定どおり、実施されるはずですけど、ちょっとちゃんと確認して、今無責任にお答えしちゃうとあれなので、改めて御連絡をします。

○参加者 11

防災の観点から、私県に確認したら、本来調整池、市で所有されてますが、その水を西谷田川に流しておられますけども、その申請はどうもなんか無断で流してるような形みたいですよ。

●市長

よく確認します。

○参加者 11

それと、西谷田川に流れる節が、あそこは写真ね、逆流防止、あれがないんですよ。水位上がったら逆流しますから。ここに写真とか持ってます。

●市長

私も就任して、少しして、ちょっと現地いろいろお声いただいていたので見に行って、だからこの環境をいかしてという方針でしたし、そもそもそれでいうので、順番に用地を購入して行って、もう用地の購入終わって、ちゃんと計画どおり整備はしていく予定ですので、ちょっと状況をちゃんと確認してはい、御連絡を…

○参加者 11

堰堤を撤去…

●市長

はい、計画は何か私に変更したということは特にありませんので。はい、ちょっとよく見て、ちゃんと御連絡、ちょっと地域の皆さんへの情報の伝わり方も、確認しないといけないと思ったので、併せて確認します。

○参加者 12

読み上げさせてください。私が属しております、芝居を通してまちおこしをする団体わわやたべや町民会議伊賀座では、5年前に結成されたR8プロジェクトでは大変お世話になっております。代表に代わりまして、御礼を申し上げます。ありがとうございます。さて、おかげさまで去年まで11作の公演を果たし、数多くの方に御参加、御協力をいただきました。今年秋に開催される企画では、創立150年の谷田部小学校と連携して、素晴らしい舞台を皆さんにお目にかけます。そこで市長にお願いと希望を申し上げたいと思います。市民ホールやたべの大ホールは13年前に被災して落下した照明器具は現在に至るまで復元しておりません。そのため、伊賀七座で公演する際、照明業者にその都度設置して運用しておりますが、その費用は毎回30万円かかりまして、興行予算の多くを割いております。そして、このような出費を各々の興行者が行っているかと思われま。つくば市さんとしては、何とかしていただけないでしょうか。

●市長

はい、わかりました。ちょっと確認をしてですね、いい環境を用意するのはそれは行政側の仕事だと思っていますので。この間も別の場所で言うとWi-Fiが入ってないから配信できないという話がありましたので、カピオなんですけど、これもWi-Fiを設置するように。今までもやっぱりそうやって民間が持つてくる無線のあれでっていうんで、じゃあちゃんと整備しなよって話をしましたので。ちょっと金額感も含めて確認をしておきますので承りました。

○参加者 12

ありがとうございます。では、希望を。飯塚伊賀七の知名度、これは御存知のない方もいらっしゃるかもしれませんが、ちょっと省略いたします。昨年6月に、テレビ東京で放送されたアド街ック天国では、ランキング20位中10位につくば市内の歴史的人物としては唯一ランクインされました。その伊賀七を題材にした多目的施設伊賀七ミュージアムの建設について、五十嵐市長は私たち伊賀七座座長からのお声が届いているかとは思いますが、代わりまして私がこのタウンミーティングの場で申し上げる次第でございます。よろしく願いいたし

ます。

●市長

はい。皆さんの熱い思いはですね、よーく感じております。新しい箱物を作るというのは、なかなか今大変な話なんですけど。ただ、地域全体で、いろんなものの更新の時期などが、要するに建物の老朽化等々を含めてですね、相当いろんなことをやらなくちゃいけないんですね。長塚議員からも、いろいろと御提案いただいていますけども、今何か言える話はないんですが、今地域の中に、伊賀七座や飯塚伊賀七の存在というのが大きくなってきているという事実も私自身よく感じていますので、そういうことについてですね、何か建物を更新したりするプロセスで、要素を入れていくなんていうことは可能性としてあるんじゃないかなんていうことは思っています。なかなかミュージアムってなると、大掛かりな話ですけど、いろいろ皆さんとも相談しながらですね、考えていければと思っています。はい、ありがとうございます。よろしくお伝えください。

○参加者 12

よく伝えます。ありがとうございました。よろしくお願ひいたします。

○参加者 13

市長さんにお願ひっていうか、障害者との関わりっていうことで、お願ひがあるんですけども。私元教員なんですけど、学校、行政、地域でできることっていうのは、それぞれ違うと思うんですけど、障害者の、特に、他は幼馴染って、できるんですけど、残念ながらどうしても遠くに学校行ってしまったりすると地域で見えないんですよ。結局、災害の時なんか、段々個人情報なんかで、昔は結構、地域にどんな方が障害を持ってるって私も把握してたんですけど、今は全くできない感じで、先ほどのたまり場にも繋がっていきんですけど、やはり、障害者が地域で、やっぱり小さい時から幼馴染になっていただきたい。このやつが大人になったら、えらい差を生んでるんですよ。やっぱり、その繋がりを地域で何かできないかっていうのは、私も考えてるんですけど、何かそういう視点を持っていたら、大分設備、陸上もそうですけど、設備等はパラリンピックから、すごく障害者に優しくなったと思ってるんですけど、結局繋ぐのが、なかなか障害者からは来られないので、人を繋ぐ、障害者と繋ぐっていうことを、地域でやっていくことを、少し考えていただけたらと思います。お願ひします。

●市長

はい。ありがとうございます。私自身、今から10数年前に障害のある人が働く農場を立ち上げて、今もう経営離れてますけれども、150人ぐらいですね、いろんな形で、今、次の経営者がいっぱいやっていますが。本当に、そのエリアでの繋がりっていうのと、その性質での、つまり、例えばスポーツを通したアクティビティと、両方大事だよねというのがあると思っています。スポーツは、例えば、それこそパラスポーツの地域のクラブに入ると、そこで体を動かしたり、あるいは、芸術の活動であれば、そこで一緒になんていうこともできて、それはそれで私はすごく大事なことだと思っています。同時に、まさにお話あったように、例えば支援学校に行くと、地域の子供との繋がりがやっぱり失われてしまうことを気にされて、本当は支援学校行った方が手厚い支援を受けられるけれども、地域の学校に行くケースなども、やっぱり見聞きをしています。それはもう、その当事者の判断をできるだけ私は尊重したいとは思っているんですけども、地域の中でのインクルーシブなコミュニティをどう作るかっていうのは、私はどちらかというと農業なら農業とか、そういうふうな方でコミュニティを作っていくって、今やっているのは、それこそ放課後デイという施設から、生活支援という大人のかかなり重度の障害の人たちの支援までいろんな形でやっているんですね。

そういう事業者目線はあるんですが、どういう枠組みがあるといいんでしょうね。地域の、という部分ですよ。一度、子供たちの職業体験みたいなのを一緒にやりたいみたいな御相談をいただいて、これまだ市長になる前ですけども、そうやってお話をされた、そう説明された障害のある子を持つ保護者の方が話したのは、やっぱり地域の子たちに、自分の子供の存在を知って欲しいという話をされていて。でもそれ本当にそのとおりになんだろうなということを感じるんですね。

○参加者 13

特別支援学校やっぱり適性に合わせて良いと思うんですね、結局、土日なんだよね。土日、その子供たちは何をしているのかの実態を見ると、それがもし地域でね、今のたまり場みたいに気にしないで行けるっていうのは、地域で、もうとても温かく安心できるよっていうのを、やはり何かそういうコーディネート…

●市長

そうですね。ちょっとなんか今パッと政策面であまり思いつかないので、どうしてもそのアクティビティの単位でのグルーピングの方が、何ていうか、やりやすいというところがあるので、どうしてもそっちに行ってしまうんですけども。今の御指摘すごくそういう意味で大事なことなので、ちょっと先進事例とかも

調べてみてですね、どんなことができるかどうか考えてみたいと思います。ありがとうございました。本当に貴重な御提案だと思います。

○参加者 14

もうほとんど話が先ほどの件で済んでいるのでちょっと確認で聞きたいんですけど、筑波大でスーパーサイエンスシティの一環として研究しておられる自動運転バスね、これはこの辺で実用化する当てはないんでしょうか。それだけ。

●市長

まずは、今は筑波大の中だけを走らせました。これを、つくば駅から今度筑波大までというふうに拡大して行って、そこで課題を洗い出そうと思っています。そういうところで、いろいろ使える仕組みになってくれば、次の段階はやっぱり別のエリアということに広げていくと。どうしてもやっぱりコントロールが、まずある程度できる場所でやって、いろいろなことを試した上で拡充していきたいなと思っています。ただ、我々は決して実証実験だけで終わるつもりでは全然ないので、いずれはというか、それをできるだけ早い段階でそれなりの、レベルで言うと、目指すはレベル4というですね、いわゆる本当に自動運転ができるような、歩車協調のシステムというのは、もういろんなところと一緒に、要するに、歩行者の事をカメラでよく見ておいて、その安全性とかが確認できるような、そういう仕組みを今、筑波大では実験して作りましたので、それをもうちょっとコントロールがしにくいつくば駅からまた走らせてみて、どんな課題が出るかと、そこで改善をして徐々にと。そこで、すみません、時期は申し上げられないんですけど、1個1個取組は進めて、いずれはもちろんそうしたいと思っています。はい、ありがとうございました。

○参加者 14

時期を知りたかった。

●市長

時期はちょっとまだお答えできるほどのスケジュールではないと。

○参加者 14

あと5年で運転免許証がうるさくなってくるので、それまでに済んでいけばいいなという、そういうことでした。

- 市長
頑張ります。